

天敵資材と化学農薬の併用による 半促成ナスのミナミキイロアザミウマの防除体系

○城塚可奈子・辻田典子*・柴尾学（大阪環農水研、*南河内農と緑の総合事務所）

大阪府南河内地域では無加温半促成ナスの栽培が盛んである。ミナミキイロアザミウマ (*Thrips palmi* Karny) はナスの重要害虫であり、有効薬剤がエマメクチン安息香酸塩乳剤など数剤に限られているため、化学農薬のみに頼らない防除体系の確立が急務である。スワルスキーカブリダニ（以下、スワルスキー）はアザミウマ類の捕食性天敵で、2009年から当地域でもスワルスキーを放飼した展示圃試験を実施してきたが、放飼のみでは十分な防除効果が得られない事例が認められた。そこで、天敵資材と化学農薬を併用したミナミキイロアザミウマの防除体系を検討したので報告する。

=方法=

大阪府河南町のナス無加温ハウスにおいて、防除体系が異なる 2013～2015 年でのミナミキイロアザミウマの発生を調査した。ナスの定植は 12～1 月、収穫終了は 7 月であった。ハウス開口部には防虫ネットを展張した。調査は 1～6 月に任意の株あたり 2 葉、計 40 株 80 葉のミナミキイロアザミウマ成幼虫数を調査するとともに、株あたり 2 果（計 80 果）を抽出して被害果数を調査した。

2013 年：定植時にジノテフラン粒剤の処理、4 月上旬にスワルスキーの放飼、4～6 月はバーティシリウム・レカニ剤またはボーベリア・バシアーナ剤と化学農薬の混用散布の体系とした。

2014 年：定植前にカーバムナトリウム塩剤の土壌処理、定植時にジノテフラン粒剤の処理、3 月上旬にスピロテトラマト水和剤およびエマメクチン安息香酸塩乳剤の散布、4 月上旬にスワルスキーの放飼、4 月中旬にメタリジウム・アニソプリエ粒剤の株元処理の体系とした。

2015 年：定植時にスピロテトラマト水和剤の灌注処理、2 月下旬にメタリジウム・アニソプリエ粒剤の株元処理、3 月上旬にエマメクチン安息香酸塩乳剤の散布、3 月下旬にスワルスキーの放飼の体系とした。

=結果と考察=

ミナミキイロアザミウマのスワルスキー放飼後の最多個体数および被害果率は 2013 年と比較して 2014 年および 2015 年では低かった（表）。また、ミナミキイロアザミウマに対する化学農薬使用回数も 2013 年と比較して 2014 年と 2015 年では大きく削減された。この差には、天敵資材と化学農薬を併用したミナミキイロアザミウマの防除体系において、スワルスキー放飼直前のミナミキイロアザミウマの発生密度を低く抑えたことが影響したと考えられた。

表 ミナミキイロアザミウマの発生密度・被害果率・化学農薬使用回数

年	ミナミキイロアザミウマの発生密度（個体数/葉）		被害果率（%）	化学農薬使用回数（回）
	スワルスキー放飼直前	スワルスキー放飼後の最大値		
2013	2.3	8.4	34.9	19
2014	0.03	1.4	5.7	3
2015	0	3.8	1.6	2